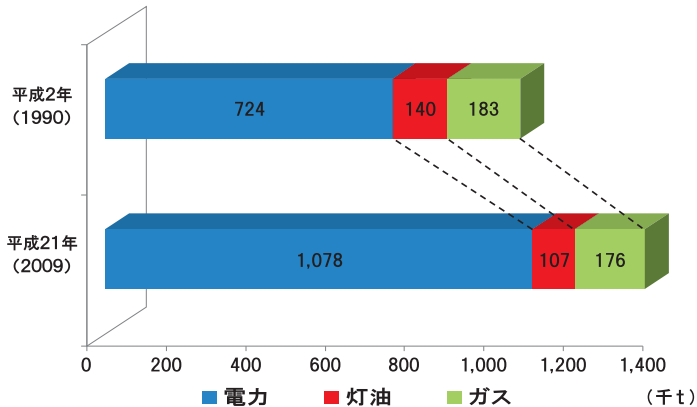


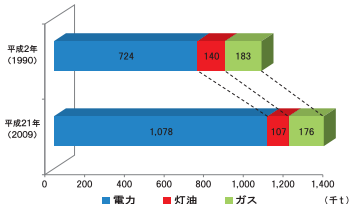
香川県の家庭から出る二酸化炭素の量の変化



【ねらい】

私たちの身近な香川での温暖化の現状やその原因を理解するとともに、私たちの住生活において化石燃料が使用され、結果として二酸化炭素の排出や地球の気温上昇に繋がることを示すことにより、省エネや環境負荷の低減のための取り組みへの理解を深めます。

香川県の家庭から出る二酸化炭素の量の変化



※なお、家庭部門のCO₂排出量には、**自家用車等の使用に伴うものは含まれていません**。(自家用車等も含めた運輸部門のCO₂排出量は、家庭部門の約1.7倍となっています。)

【関連する各教科の学習内容】

	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
社会		地域の人の生活	公民と国民の権利・生活環境	世界の国の国			
理科							
技術・家庭(道徳)							
家庭							
技術・家庭(家庭)							

【資料解説】

このデータは、香川県の平成2年度と平成21年度の家庭部門のCO₂排出量を比較したものです。香川県の平成21年度の家庭部門のCO₂排出量は1,361千tで、県内のCO₂総排出量の16.7%を占め、平成2年度比で30.0%増加(主に増加したのは平成12年度頃までは平成12年度頃までであり、それ以降は横ばい傾向)しています。

また、排出量の内訳は、電力が1,078千t(79.2%)と最も多く、平成2年度の724千t(69.1%)から大きく増加しています。

出典：香川県地球温暖化対策推進計画

【参考1】

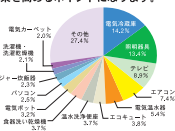
ちなみに、一世帯あたりのエネルギー消費量は、平成12年度頃をピークに減少傾向にあります。(平成21年度一世帯あたりのエネルギー消費量 ▲11.3%(平成12年度比))

これは、家庭用機器のエネルギー消費効率の向上、省エネ行動の実践、一世帯当たりの人員の減少が要因として考えられます。

一方で、家庭部門からのCO₂排出量は、平成12年度頃以降横ばい傾向にあります。これは、世帯数の増加、一世帯当たりの家電保有台数の増加や新しい家電の登場が要因として考えられます。

【参考2】家庭における機器別の消費電力量の比較

家庭における電気約4割は冷蔵庫、照明器具、テレビ、エアコンの4つに使われています。こうした消費電力量の多い機器にきちんと対応することが、省エネや二酸化炭素排出削減効果を高めるポイントになります。



出典：省エネルギーセンター「家庭の省エネ大事典2012年版」